

宮崎中央青果

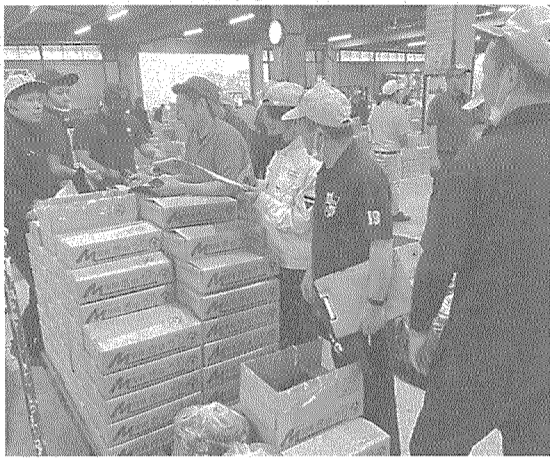
JGAP取得を後押し

団体認証の事務局に

コンビニ等から引合い

地域農業を未来に残すために青果卸売業者としては何をすべきか。果菜類の産地市場である宮崎中央青果（川野徳寛社長、宮崎中央卸売市場）では、2020年から中央卸売市場青果卸としては唯一であるJGAP団体認証の事務局となり、県内農家のJGAP認証取得を後押ししている。営業担当者は13人がトレーナーの資格を取得し、農家に無料で指導。21年～22年までに、同社に出荷する農家13人が団体の認証を取得した（他に個人での取得2人）。専用売場も設置。現在のところ対象品目はピーマンが主体で、需要はコンビニベンダーが多いが、一部大手量販店からの引合いも。さらに食の安全分析センター（宮崎市佐土原町）と連携。主要農薬成分の残留が最短で翌日に高精度判定できるなど、定期的に納入商品の安全性を担保している。

同社がJGAPの取組材納入に、（ローカル版）正部長という。スーパーがなくなった。みやま検査からも「GAP認証が」など実需者からも「GAP認証を受けたピーマンはありますか」などの問い合わせに取組む農家は100人



(写真上) 宮崎中央青果のJGAP専用売場
(写真下) 圃場で生育状況などを話合う橋口さん(右)と村田課長

近況。ただ、無料のひなたGAPとは異なり、JGAPは取得および2年ごとの更新時に数十万円以上かかる。また農産部門の認証機関が東にしかなく、検査員を招聘する費用も負担に。しかもGAPは食品安全・環境保全・労働安全等を目的に、農産物の生産工程ごとに適した作業手順や物の管理を行う手法。必ずしも販売価格に転嫁できるものではないことから、二足を踏む農家が大半だった。

それでも「今後、一段階上のJGAPがスタンダードになる可能性がある。原因と結果の見える化により農業に関する総合的な安全性が確立できるため、トフルが起った際にも対応が容易で、将来的には必ず地域農家のためになる」と考

農経新聞

株式会社 農経新聞社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-27-6 市原ビル9F
TEL03-3491-0360
https://www.nokg.jp/

2023.10.19
高濃度スルフォラファン
2.4mg (50%水分)

※SGS(スルフォラファン)コンシレート
村上農園

- #### 今週の注目記事
- 物流拠点施設が稼働
ストックポイント機能発揮
北九州青果(3面)
 - 「仲卸の将来像と
果たすべき役割」
吉田雅巳氏(3面)
 - 新デリカセンター稼働
パイン、キャベツ加工も
平和堂(4面)

明日への対話

いよいよインボイス制度が導入された。軽減税率など複数税率が導入された時点から、将来は必須となることはいわくわくしていたこと。相変わらず「制度が導入される直前になっての反対運動」はつきものだが、それなら選挙の際からきちんと反対運動し、投票で意思表示をすべきだった。◆それはさておき、いかに「事務処理

「卸売市場特例活用を」
インボイスの導入で、卸売市場の特例活用を。業者は、公共性を発揮する。卸売市場の特例活用を。業者は、公共性を発揮する。卸売市場の特例活用を。業者は、公共性を発揮する。

が大半」という理由は、あるものの、零細な個人事業者がこれまで長期にわたり、「益税」というメリットを受けながら、卸売市場や農協であったとしても買付集荷では、特例が利用できない。◆これも含めて、生鮮食品を提供しているすべての農家や事業者は、公共性を発揮する。卸売市場の特例活用を。業者は、公共性を発揮する。

要一と、仲間を誘って団体取得した。橋口さんら若手農家と連携する野菜1部2課の村田大記課長も、「皆さんすでに、ひなたGAPを取得して意識が高かったこともあってか、JGAP取得でもあまり指導することはない」と高く評価している。